



当日の展示プログラム紹介



広島市立基町高等学校の生徒と被爆者との共同制作による「原爆の絵」

広島市立基町高等学校創造表現コースでは、原爆被害の実相を後世に伝えていくために、被爆体験証言者とともに「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。この取組は、被爆者が高齢化する中、被爆の実相を絵画として後世に残すことや、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的に行われています。今回は全35点の複製原画を展示しました。



企画展示「伊勢原市の戦争と平和の記憶」

本市は平成26年度から、東海大学水島研究室と協働し、戦争体験インタビューや、市内の風景に残る戦争の記憶に焦点を当てた「平和ドキュメンタリー映像」などを制作しています。今回はその取組にフォーカスし、伊勢原市の戦争と平和の記憶を辿る展示を行いました。



市民団体コーナー（いせはら市民平和実行委員会）

いせはら市民平和実行委員会による「いせはら市民平和展」が行われました。

委員会が制作したパネルや、戦争に関する史料の展示のほか、平和の願いを込めて折り鶴を折るコーナーも設置されました。



令和7年度 中学生平和作文 受賞作品

伊勢原市では、広く市民の平和意識を啓発することを目的に、市立4中学校の3年生を対象に「中学生平和作文」を募集し表彰しています。応募総数619点の中から、優秀賞と佳作を受賞した計16点の作品を展示しました。表彰式は、8月23日（土）に市民文化会館小ホールで開催された、戦後80年事業「平和のつどい」内で執り行いました。



令和7年度 中学生ヒロシマ平和の旅 参加報告

伊勢原市では、次代を担う若年層の平和意識を啓発することを目的に中学生平和の旅派遣事業を行っています。

今年度は平和作文で優秀賞を受賞した8名が「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」として平和記念式典への参列や、平和記念資料館の見学、同年代の仲間との平和に関するディスカッション等を行いました。

平和を祈念するパネル展示では、中学生が広島で学んだ事をまとめた掲示物を展示しました。



VRゴーグルによる原爆被害の疑似体験

今年度、新たな取組として、広島市が制作した被爆の実相のVR（バーチャルリアリティ）映像が組み込まれたVRゴーグルを用いて、原爆投下時の悲惨さや復興していく街並みなどを疑似体験できるコーナーを設置しました。当日は86名の方が、VRゴーグルで体験を行い、原爆の悲惨さを実感しました。

